

厚生労働科学研究補助金（政策科学推進研究事業）

「健康なまちづくりのためのソーシャル・キャピタル形成手法を活用した介入実証と評価に関する研究」

研究協力報告書（平成 26 年度）

『産婦を対象とした出産後のケアに関する調査』

研究協力者	福永 一郎	(高知県 健康政策部 健康対策課)
	田村 美智	(同 周産期・母子保健推進室)
	山本久充子	(同 周産期・母子保健推進室)
	西田 裕子	(同 周産期・母子保健推進室)
	山崎祐美子	(同 周産期・母子保健推進室)
	三谷 和加	(同 周産期・母子保健推進室)

研究要旨

【目的】 産後早期の産婦のニーズを明らかにし、産前・産後ケアとして必要な内容について検討する。

【方法】 乳児等をもつ母親(赤ちゃん会及び市の乳児健診参加者等)を対象に聞き取り調査を行った。調査期間は平成 26 年 4 月～5 月である。

【結果】 回答者は 256 人であった。産後 2 か月までのことについて、困ったことがあった母親は 62.9%であり、主な困りごとは「授乳のこと」「子どもの皮膚の手入れ」「育児に慣れない感じでとまどった」「気が滅入った」「漠然とした不安」であった。母親の 32.8%は産後体調不良の状態であり、体調不良の主な理由は「睡眠が十分取れなかった」「からだの疲れが取れなかった」「からだの痛みが強かった」「精神的につらかった」であった。

出産から産後 2 か月までに受診・利用したものについては、1 か月児健診、産後の健診の利用は非常に高かったが、2 か月児での予防接種は 81.6%となっており必ずしも高くなく、教室などではベビーマッサージが 12.1%、育児相談は 14.1%、乳房ケアは 9.8%が利用したと回答していた。

参加・利用したい機会として、「親同士の仲間作りの場(37.5%)」「育児の方法を教わる場(32.4%)」「乳房ケアを教わる場(28.1%)」「近所や地域の人達と交流の場(21.9%)」「夫(パートナー)や家族が育児を教わる場(21.5%)」「悩みをきいてもらい、ねぎらってくれる場(18.8%)」の割合が高かった。「出産から 2 か月くらいの中に、提供されていたら、利用してもよいと思うか」について、「産後デイケア」は、「ぜひ利用」43.3%、「場合によっては利用」41.0%であり、「産後ショートステイ」は「ぜひ利用」24.6%、「場合によっては利用」27.3%、「産後ホームヘルプサービス」は「ぜひ利用」24.2%、「場合によっては利用」26.6%であった。

【考察】 調査結果から、心身にミドルリスクからハイリスクを抱えた産婦が地域に一定

数存在していること、約 3 分の 1 が産後体調不良の状態にあること（メンタル面の問題・身体的な問題・産婦固有の問題）が明らかとなった。また、産後ケアの実施内容としては、「地域での縁絆を培う機能」「教育的機能」「乳房ケア」「心理的負担を軽減するケア」を内容として含むことが必要であると考えられ、ケアの形態としてはデイケアのニーズが高かった。高知県では、この結果を受けて「高知家の産後ケア」体制づくり検討会を実施し、来年度からの地域推進に向けて検討を行うとともに、「産後ケア研修会」を開催し、母子保健従事者の能力向上を図っている。

A.はじめに

母子保健はコミュニティ単位の悉皆的な公衆衛生である。母子保健の一環で行われる産後ケアは、単なる利用型住民サービスの一パーツではなく、母子保健全体の中でどのように位置づけられるかを考え、地域のニーズに即した展開を図る必要がある。

核家族化や地域のつながりの希薄化、少子化・過疎化により、支援者や相談者がおらず、産婦が家庭や地域で孤立しやすい状況になっている。また、出産後退院した直後は、家族による支援等が受けられないと、心身の疲労が蓄積し、育児や自らの健康の回復に支障をきたし、メンタル面にも問題をおこしやすい時期である。しかし、退院直後の健康面の悩みや育児への不安などに対する支援は不足している。

妊産婦をめぐる母子保健の現状としては、産後の手厚いサポートを必要とする妊産婦（社会的ハイリスク妊婦を含む）の把握の仕組みが十分でない、市町村母子保健事業は産婦訪問と育児相談を中心に、産婦を対象とした事業が断片的に供給されるとともに、家庭訪問と保健指導的な事業が主で心身の疲労に対するアプローチ（心身

を休める機会、保健師や専門家のカウンセリング、ピアカウンセリングの提供など）はみられておらず、先輩親や地域住民との交流の機会、コミュニティになじむ機会は十分には用意されていないといった問題がある。

今回、産後の心身の回復と、いきいきとした子育てデビューを支援することを目的として、産後早期の産婦ニーズを把握するため、産後ケアに関する調査を実施した。

B.方法

県内企業が実施している赤ちゃん会（高知市会場、四万十市会場）に参加した母親および香美市、香南市、南国市の乳児健診参加者及び高知市子育てひろば参加者を対象とした。調査方法は、健康対策課職員による面接聞き取り調査（他計式）を実施した。調査票は末尾資料のとおりである。期間は平成 26 年 4 月から 5 月である。

（赤ちゃん会）

「赤ちゃんの健やかな成長を願う『第 8 4 回赤ちゃん会』を開催します。『赤ちゃん会』は、参加費無料で、専門医らによる診察、相談や測定を通して、保護者の皆さん

に育児について学ぶ場にしていただける催しです。今年も高知県内の2会場で開催します。高知が4月20日、幡多は4月29日です。多数のご参加をお待ちします。
 (高知新聞ホームページ 2014年02月24日の記事より)

<http://www.kochinews.co.jp/?&nwSrl=316049&nwVt=knd>」

C.結果

回答者は256人であった。

1. 属性

1) 赤ちゃんの月齢 (図1)

赤ちゃんの月齢は、4か月が最も多く、次いで9か月、5か月、3か月の順であり、11か月まで(1歳未満)は全体の82.4%であった。

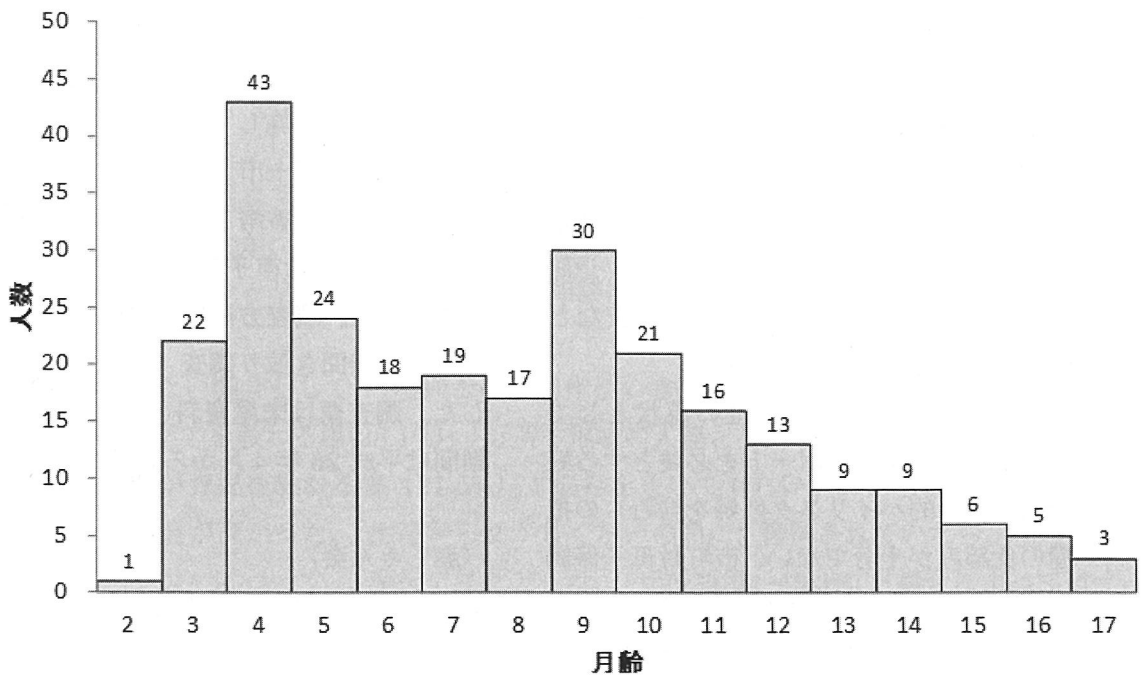


図1 回答者の赤ちゃんの月齢

2) 初めてのお子さんですか (表1、2)

初めてのお子さんは62.5%、子どもの数は1人(目)62.5%、2人(目)26.2%、3人(目)7.8%であり、4人以上は3.1%であった。

3) 母の年齢 (表3)

母の年齢は、30~34歳が35.9%と最も高く、次いで25~29歳が28.1%、35~39歳が23.8%となっている。

4) 居住している市町村

居住している市町村は、高知市、南国市、香美市、四万十市、香南市の順であった。

5) 母の仕事 (表4)

母の仕事は、ありで休業中42.6%、なし39.1%で、ありで仕事をしている18.4%であった。

表1 初めてのお子さんですか

	人数	割合
はじめて	160	62.5%
2人目以降	96	37.5%
合計	256	100.0%

表2 子どもの数

	人数	割合
1	160	62.5%
2	67	26.2%
3	20	7.8%
4	6	2.3%
5	1	0.4%
6	1	0.4%
不明	1	0.4%
合計	256	100.0%

表3 母の年齢

年齢区分	人数	割合
10歳代	0	0.0%
20～24歳	11	4.3%
25～29歳	72	28.1%
30～34歳	92	35.9%
35～39歳	61	23.8%
40歳以上	20	7.8%
合計	256	100.0%

表4 母の仕事

	人数	割合
ありで休業中	109	42.6%
ありで仕事をしている	47	18.4%
なし	100	39.1%
合計	256	100.0%

表5 家族構成

	人数	割合
親と子のみの家族	212	82.8%
3世代以上の家族	44	17.2%
合計	256	100.0%

表6 生後3か月までの栄養

	人数	割合
母乳	157	61.3%
人工乳	4	1.6%
混合乳	95	37.1%
合計	256	100.0%

(参考) 赤ちゃんの月齢の平均と標準偏差

ありで休業中 6.7 ± 2.8 、ありで仕事をしている 10.1 ± 3.6 、なし 8.1 ± 4.1

6) 家族構成 (表 5)

親と子のみの家族 82.8%、3 世代以上の家族 17.2%であり核家族の割合が圧倒的に高い。

7) 生後 3 か月までの栄養 (表 6)

母乳 61.3%、混合乳 37.1%で、母乳を摂取しているものがほとんどである。人工乳は 1.6%であった。

2. 産後 2 か月までのことについて

1) 問 1 育児は順調でしたか (表 7)

はいが 93.4%、いいえが 6.6%であり、おおむねは順調であるが、15 人に 1 人程度は順調ではないと答えている。

2) 問 2 困ったことはありましたか (表 8)

困ったことがあった割合は 62.9%で、半数を超えていた。

(参考) 初めてのお子さんでは 71.9%、初めてのお子さん以外では 46.5% ($P < 0.001$ χ^2 二乗検定 Yates 補正)

困ったことの内容では (図 2)、授乳のこと、子どもの皮膚の手入れ、育児に慣れない感じだとまどった、の 3 つが高く、気が減入った、漠然とした不安も 1 割を超えていた。いちばん困ったこともおおむね同様

の傾向であった。その他では上の子どもの世話 8 人 (5.0%)、夜泣き、夜寝られなかった、が上位にあった。シングルマザー、DV をあげたものもあった。

3) 問 3 困りごとなどを相談する相手はいましたか (表 9)

98.8%があるとし、相談相手がいないとしたものは 1.2%であった。

4) 問 4 体調は良かったですか (表 10)

はいが 67.2%であり、いいえが 32.8%で、約 3 分の 1 は産後体調不良の状態であった。

体調が良くなかった理由としては、過半数 (52.4%) が睡眠が十分取れなかったをあげ、次いでからだの疲れが取れなかった (42.9%)、からだの痛みが強かった (22.6%)、精神的につらかった (21.4%)、産後の回復が遅かった (20.2%)、乳房の状態がよくなかった (16.7%) の順であった。心身共に理由があげられた (図 3)。

5) 問 5 お産から産後 2 か月までに受診・利用したものについて (表 11)

健診などでは、1 か月児健診、産後の健診の利用は非常に高かったが、2 か月児での予防接種は 81.6%となっており、2 割弱は予防接種のスタートが遅いため、将来接種もれの恐れがある結果であった。

教室などではベビーマッサージが 12.1%であり、他の利用は数%程度以下と低かった。

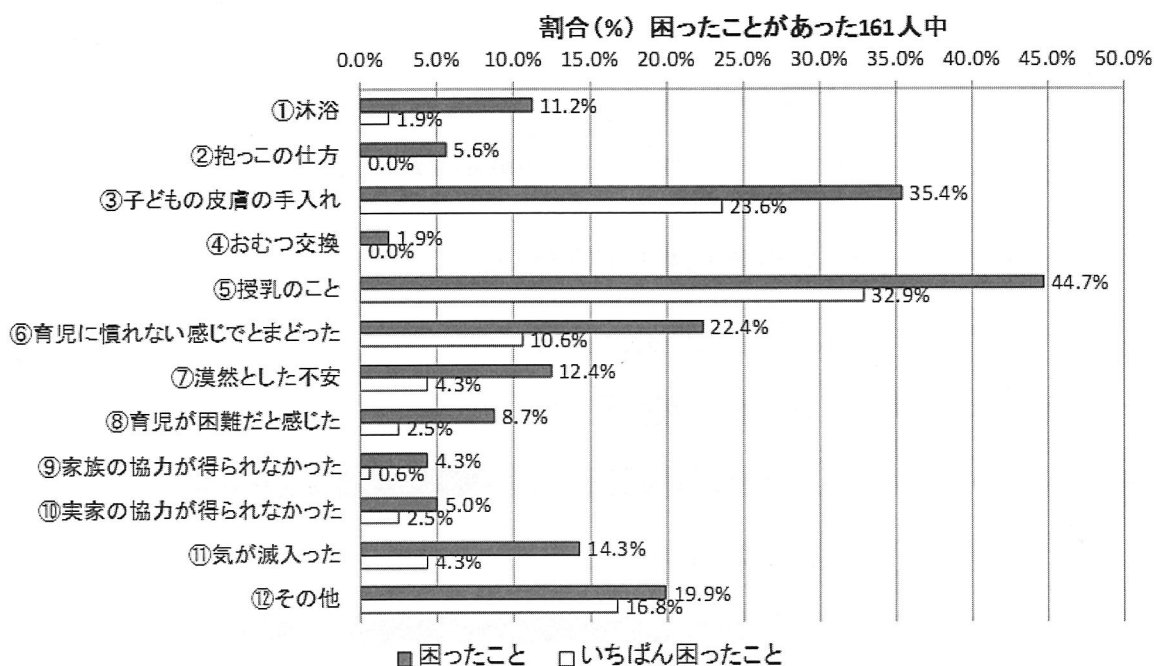
相談などでは、育児相談は 14.1%であり、栄養相談やこころの相談の利用は 5%未満と低かった。

表7 育児は順調でしたか

	人数	割合
はい	239	93.4%
いいえ	17	6.6%
合計	256	100.0%

表8 困ったことはありましたか

	人数	割合
あった	161	62.9%
なかった	95	37.1%
合計	256	100.0%



その他内容(32)

上の子どもの世話	8
夜泣き	6
夜寝れなかった	2
夜寝ない	1
ぐずり、抱っこが大変	1
子どもの具合や病気	1
黄疸	1
子どもの発達	1
母乳が足りているか体重を測りたい	1
乳腺炎	1
自分の体力面	1
体調が悪く、上の子どもの関わりができない	1
体調を崩したりで子供の世話ができなかった	1
ストレスがたまる	1
だんなさんが不在のときの赤ちゃんの世話	1
シングルマザーで協力者が誰もいなかった	1
夫の暴力と離婚	1
市町村のサービスの情報が入りにくい	1
記載なし	1

図2 困ったことの内容

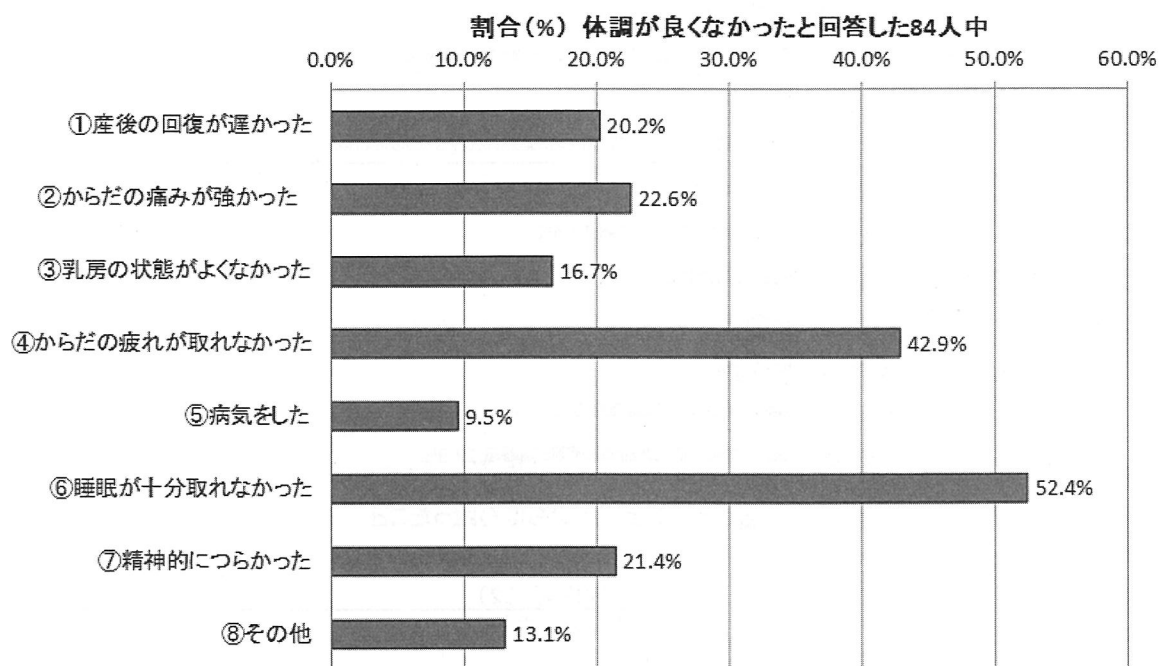
表9 困りごとなどを相談する相手

相談相手	人数	割合
いた	253	98.8%
いなかった	3	1.2%
合計	256	100.0%

表10 体調は良かったですか

	人数	割合
はい	172	67.2%
いいえ	84	32.8%
合計	256	100.0%

体調が良くなかった理由(複数回答)



その他内容(11)

腰痛	2
腰痛、肩こり	1
恥骨離開で動きづらかった	1
帝王切開のあとが痛かった	1
目の調子が悪かった	1
時々熱が出た、歯のこと	1
体力の戻りがおそかった	1
切迫早産で入院していて体力が落ちていた	1
入院が長引いた	1
うつ状態になり、受診した	1

図3 体調がよくなかった理由

表 11 お産～産後2か月までに受診・利用したもの

お産～産後2か月までに受診・利用したもの	人数	割合
健診など		
①1か月児健診	255	99.6%
②産後の健診	251	98.0%
③予防接種(2か月児の時)	209	81.6%
教室など		
④育児の教室	14	5.5%
⑤運動教室・エクササイズ・産後体操	9	3.5%
⑥栄養教室など	17	6.6%
⑦ストレッチ	0	0.0%
⑧ベビーマッサージ	31	12.1%
相談など		
⑨育児相談	36	14.1%
⑩栄養士の相談	8	3.1%
⑪こころの相談	1	0.4%
癒し系の施術やサービス		
⑫鍼	2	0.8%
⑬灸	1	0.4%
⑭マッサージ・エステ	7	2.7%
⑮アロママッサージ	5	2.0%
⑯フットケア	1	0.4%
⑰ヨガ	6	2.3%
デイケアなど		
⑱産後デイケア	0	0.0%
⑲産後ショートステイ	0	0.0%
⑳産後ホームヘルプサービス	0	0.0%
その他		
㉑その他	36	14.1%
㉒再掲 乳房ケア	25	9.8%
合計	256	100.0%

その他(36)

乳房ケア	25
子育て支援センターなど利用	6
整体	5

癒し系の施術やサービスでは、利用割合が5%を超えるものはなかった。

産後デイケア、産後ショートステイ、産後ホームヘルプサービスの利用はなかった。

その他は14.1%であり、ことに乳房ケアに関するものは9.8%が利用したと回答していた。

3. サービスなどの利用についてのお考えについて

(調査票では、「これまでに利用したサービスや、お考えについて」となっているが、ここできいているのはサービス等を仮定して利用意向を聞いているので、表題を「サービスなどの利用についてのお考えについて」とした)

1) 問6 あなたのお住まいの地域で、以下の機会があれば参加・利用しますか(図4)

親どうしの仲間作りの場37.5%、育児の方法を教わる場32.4%、乳房のケアを教わる場28.1%が上位3つであり、次いで近所の人、地域の人たちと交流する場21.9%、夫(パートナー)や家族が育児を教わる場21.5%、悩みをきいてもらい、ねぎらってくれる場18.8%となっている。

とくにない、としたのは12.1%であり、9割弱が何らかの機会へ参加・利用希望がある。

2) 問7 お産から産後2か月までの産後デイケア、産後ショートステイおよび産後ホームヘルプサービスの利用について(図

5、表12)

(1)「産後デイケア」(日帰りで休息と食事を提供し、育児の知識や技術、健康管理を教えてくれるもの)

ぜひ利用したい43.4%、場合によっては利用したい41.0%であり、利用可能性のあるものは84%(216/256)である。

ぜひ利用したい、場合によっては利用したい、の場合、費用がいくらなら利用するかについては、1日(6時間、昼食おやつつき)につき、1,000円の負担なら利用する40.3%、500円20.4%、2,000円19.0%、3,000円13.9%の順となっている。

(2)「産後ショートステイ」 上記産後デイケアに宿泊と入浴、夜間の食事がついて、ゆっくり母児同室で休息できるもの

ぜひ利用したい24.6%、場合によっては利用したい27.3%であり、利用可能性のあるものは52%(133/256)である。

ぜひ利用したい、場合によっては利用したい、の場合、費用がいくらなら利用するかについては、1泊4食(昼、おやつ、夕、夜食、朝)デイケア1日分付属につき、5,000円の負担なら利用する74.4%、10,000円18.8%、無料6.0%の順となっている。

以下の機会があれば参加・利用するか(複数回答)

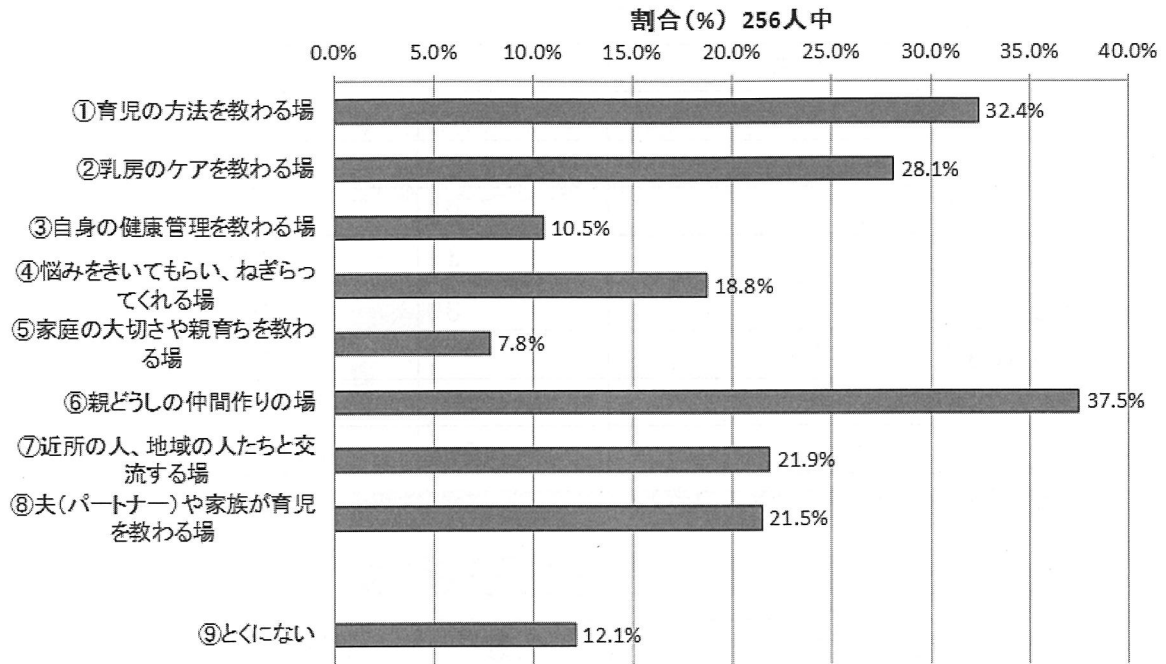


図4 以下の機会があれば参加・利用しますか

お産から産後2か月までの産後デイケア、産後ショートステイおよび産後ホームヘルプサービスの利用について 割合(%)256人中

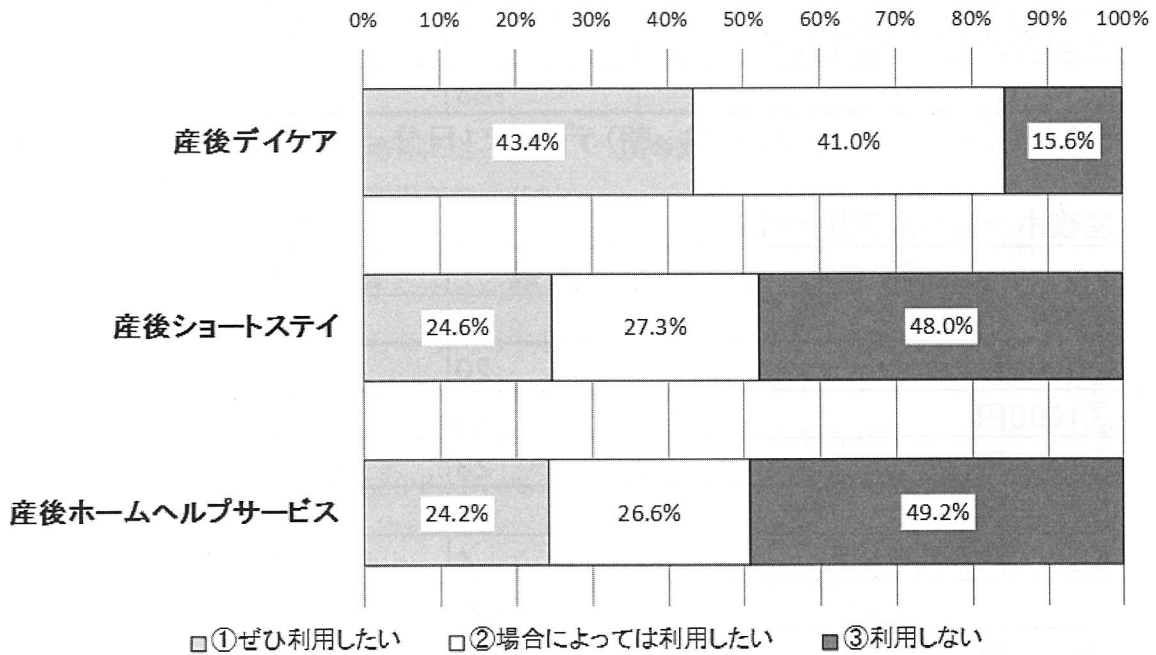


図5 お産から産後2か月までの産後デイケア、産後ショートステイおよび産後ホームヘルプサービスの利用について

表 12 ぜひ利用したい、場合によっては利用したい の場合、費用がいくらなら利用するか

産後デイケア

1日につき	人数	割合
①0円	6	2.8%
②500円	44	20.4%
③1000円	87	40.3%
④2000円	41	19.0%
⑤3000円	30	13.9%
⑥5000円	7	3.2%
⑦10000円	1	0.5%
合計	216	100.0%

1日(6時間、昼食おやつつき)

産後ショートステイ

1回につき	人数	割合
①0円	8	6.0%
②5000円	99	74.4%
③10000円	25	18.8%
④15000円	1	0.8%
⑤20000円	0	0.0%
⑥20000円を超えても	0	0.0%
合計	133	100.0%

1泊4食(昼、おやつ、夕、夜食、朝)デイケア1日分

産後ホームヘルプサービス

1回につき	人数	割合
①0円	7	5.4%
②500円	20	15.4%
③1000円	46	35.4%
④1500円	23	17.7%
⑤2000円	30	23.1%
⑥2000円を超えても	4	3.1%
合計	130	100.0%

1回2時間

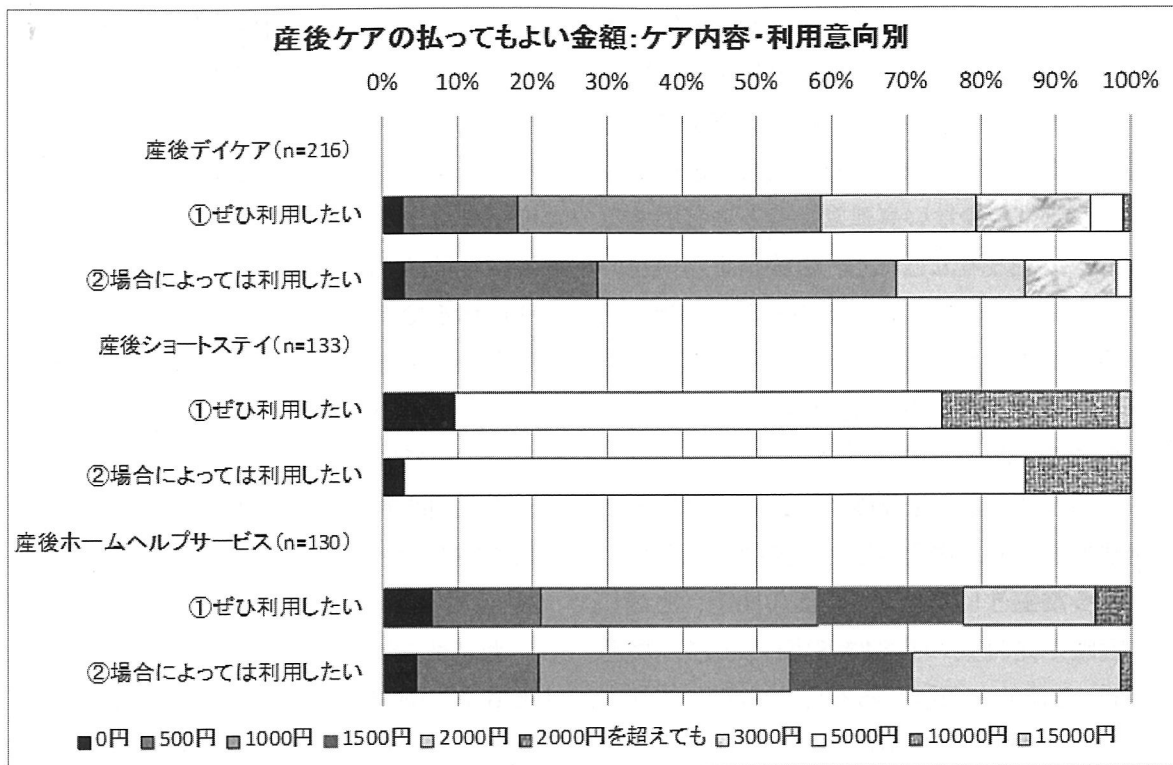


図6 産後ケアの払ってもよい金額、ケア内容・利用意向別

(3) 「産後ホームヘルプサービス」 家事や育児を行うことが困難な場合に、ホームヘルパーを派遣して母親や乳児の身の回りの世話や育児等を支援するもの

ぜひ利用したい 24.2%、場合によっては利用したい 26.6%であり、利用可能性があるものは 51% (130/256) である。

ぜひ利用したい、場合によっては利用したい、の場合、費用がいくらなら利用するかについては、1回2時間につき、1,000円の負担なら利用する 35.4%、2,000円 23.1%、1,500円 17.7%、500円 15.4%の順となっている。

(参考) ぜひ利用したい、と、場合によっては利用したい、と比較すると、産後デイケア、産後ショートステイでは、ぜひ利

用したいと答えたものの方が、場合によっては利用したいと答えたものより、高額割合が高くなっている。ホームヘルプサービスではこの傾向はない (図6)。

D. 考察

1. 産後2か月までの心身の状態について
 今回の調査では、育児は15人に1人程度は順調ではないと答えており、心身にミドルリスクからハイリスクを抱えた産婦が地域に一定数存在することが示唆される。困ったことがあった割合は62.9%であり、授乳のこと、子どもの皮膚の手入れ、育児に慣れない感じだとまどった、の3つが高く、気が滅入った、漠然とした不安も1割を超えている状態であった。授乳のこと、子どもの皮膚の手入れについては、助

産師等の医学的専門性に依存する部分であり、育児に慣れないは育児技術上の問題や支援者がいないという問題、気が滅入った、漠然とした不安は心理的な問題や地域との紐帯が少ない（孤立）ことに起因するものが主と考えられる。相談相手がいないと答えたものはわずかであったが、相談相手がいない産婦はリスクがかなり高いと思われるので的確に把握することが求められるであろう。

約3分の1は産後体調不良の状態であり、理由として、睡眠不足、精神的なつらさといった主としてメンタル面の問題（ただし、睡眠不足は児の夜泣きや授乳など、物理的・身体的な問題もある）、からだの疲れ、痛み、産後の回復が遅いといった身体的な問題、乳房の状態がよくないといった産婦が持つ固有の問題があげられている。これらの体調不良への対処は、心身の疲労の軽減・休息に加えて、メンタル面や、乳房ケアへのアプローチが求められる。

困りごとや体調不良の結果からは多様なニーズが一定存在することが示される。

2. 実際に受診・利用した母子保健事業や産後ケアサービスの状況について

健診は利用が高いが、予防接種は2割程度がワクチンデビューに失敗していると考えられる。相談については、低い利用にとどまっており、困りごとや体調不良の結果と比べると、活用状況は十分ではないと考えられる。乳房ケアに関するものは、ニーズも高く、かつ利用も一定あると考えられる。

教室などではベビーマッサージが

12.1%であり、他の利用は数%程度以下と低かった。これらの教室については、産婦やパートナー、家族に対する教育的機能の一環で検討することが好ましい。癒し系の施術やサービスは、心身の回復に活用できるが、現状では付加的なサービスに位置づけられるであろう。

産後デイケア、産後ショートステイは県内で1施設が実施しているが、今回の回答者においては、利用はなかった。

問6、問7は、上記の現状に対する必要性や需要を検討するために設けた設問である。

サービスなどの利用意向について、まず、問6での地域における機会に対しては、親どうしの仲間づくりや地域の人たちとの交流といった、地域での縁絆づくり、母や父（母の夫、パートナー）への教育機会、乳房ケアの機会及び悩みを聞いてねぎらってもらえる機会が、多くの産婦にとって必要であることを示唆している。

上記を総合すると、産後ケアの実施内容としては、地域との縁絆を培う機能、教育的機能、乳房ケア、心理的負担を軽減するケアの4つが必須的事項であると考えられる。

次に、心身の疲労を軽減し、休息を得ることを目的の一つとしている問7の産後デイケア、ショートステイ、ホームヘルプサービスについては、ことに産後デイケアにおいて、利用可能性のあるものの割合が高く、ぜひ利用したいとしたものが4割を占めており、大きなニーズが存在していると考えられる。

また、産後ショートステイについても一定のニーズが存在しており、利用を希望す

る産婦が利用できるような体制を県下で構築することが求められている。産後ホームヘルプサービスも、ぜひ利用したいとしたものが2割程度あり、一定のニーズが存在すると考えるが、その性格上、コミュニティベース（市町村単位）で整備する必要があるため、アウトリーチ型産後ケアと組み合わせる等実施方法に検討が必要である。

なお、利用料金について、ショートステイに関しては、1泊4食とデイケア1日分を含む料金として、5,000円以下の金額では、病院・診療所、助産所の入院費用や、ビジネスホテル等の低廉な宿泊施設での食事代、宿泊代等と比較しても低廉であり、やや現実的な金額ではないと考えられる。

1泊4食とデイケア1日分ではなく、1泊2食とし、デイケアを切り離すなど、どの提供内容を単位とするか検討が必要である。

また、地域との縁絆を培う機能、教育的機能、乳房ケア、心理的負担を軽減するケアの4つについて、産後デイケア等の場を十分に活用して提供すると思われるが、産後デイケア等における提供内容のうち、どの部分が公的サービスとして無償ないしは低廉な料金で実施する性格を持つ内容であり、どの部分が比較的私的なケアを提供する内容であるかなど、公的役割に関する整理が必要である。利用料についてどのような考え方で臨むかは、公的助成の妥当性の検討や、厚生労働省の妊娠・出産包括支援モデル事業を利用している先駆的な

市町村の動向など、全国的な情報収集も含め、各方面からの検討が求められる。

今回の対象は、赤ちゃん会や子育てひろば参加者、乳児健診利用者であるため、社会的リスクが非常に高い対象や、NICUに長期滞在したような児は含まれていない可能性が高い。この点については今後市町村ごとに実施するニーズ調査結果等も含んだ上での検討が必要である。

高知県では、この調査結果を踏まえ、「高知家の産後ケア」体制づくり検討会を3回開催し、来年度からの地域推進に向けて検討を行うとともに、「産後ケア研修会」を開催し、母子保健従事者の能力向上を図った。

【参考文献】

富田素子, 小堀由祈子, 渡部たづ子, 阿部正, 宮里和子, 齋藤泰子, 工藤恵子, 小松崎愛美, 内宮律代, 青山廣子, 萩原玲子, 丹波恵美子, 福島富士子, 福永一郎. 産後ケア事業の評価, 利用後のアンケート調査から. 東京都福祉保健医療学会誌 2009. 139-140. 2009

福永一郎. 地域での産後ケアの展開に関する論考. 厚生労働科学研究補助金(政策科学推進研究事業)健康なまちづくりのためのソーシャル・キャピタル形成手法を活用した介入実証と評価に関する研究(研究代表者 福島富士子). 平成25年度総括研究報告書. 2014.

出産後のケアに関する調査（ご協力依頼）

高知県健康政策部健康対策課

高知県では、産後の心身の回復と、いきいきとした子育てデビューを支援するために、産後早期のお母さんとお子さん、ご家族を対象とした新しい施策の企画立案を検討しております。

今回、基礎情報を得るために、最近、お産をされて、産後を過ごされたおかあさま方を対象に、出産後のケアに関するききとり調査を行うことといたしました。

本日は、お忙しいところお手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解の上、なにとぞご協力くださいますようお願いいたします。

回答時間は5分程度です。

主な内容は、お産から産後2か月までの健康や育児に関することです。

お名前はきかないで調査いたします（無記名調査です）。

回答内容は統計的に処理され、個人の情報が特定されることはありません。

この調査の分析結果は、高知県における母子保健施策の企画立案の資料として用いられます。

※なお、調査の回答データを、産後ケアを研究している厚生労働省科学研究班に提供することによって、国段階での出産後のケアに関する政策研究や、国の政策立案にも役立つ場合がありますが、調査内容が研究以外の目的に使用されることはありません。



けんしんうけよう

【調査に関するお問い合わせ先】

高知県健康政策部健康対策課

周産期・母子保健推進室

電話：088-823-9659 FAX：088-873-9941

E-mail：130401@ken.pref.kochi.lg.jp

(調査票シリアルNo.)

出産後のケアに関する調査票

(ききとり者名 実施日)

今回参加の赤ちゃんの月齢	満月齢を記載	か月
初めてのお子さんですか	<input type="checkbox"/> ①はじめて <input type="checkbox"/> ②2人目以降(人目)	
おかあさまの年齢	<input type="checkbox"/> ①10歳代 <input type="checkbox"/> ②20～24歳 <input type="checkbox"/> ③25～29歳 <input type="checkbox"/> ④30～34歳 <input type="checkbox"/> ⑤35～39歳 <input type="checkbox"/> ⑥40歳以上	
おかあさまのお住まいの市町村名	市町村名を記載	
おかあさまのお仕事は	<input type="checkbox"/> ①ありで休業中 <input type="checkbox"/> ②ありで仕事をしている <input type="checkbox"/> ③なし	
家族構成	<input type="checkbox"/> ①親と子のみの家族 <input type="checkbox"/> ②3世代以上の家族	
市町村からの家庭訪問は	<input type="checkbox"/> ①受けた <input type="checkbox"/> ②受けていない	
生後3か月までの栄養は	<input type="checkbox"/> ①母乳 <input type="checkbox"/> ②人工乳 <input type="checkbox"/> ③混合乳	

産後2か月までのことについて。あてはまるものにチェックする。

問1	育児は順調でしたか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
問2	困ったことはありませんでしたか	<input checked="" type="checkbox"/> あった(以下を聞きとる) <input type="checkbox"/> なかった(問3へ) <input type="checkbox"/> ①沐浴 <input type="checkbox"/> ②抱っこ仕方 <input type="checkbox"/> ③子どもの皮膚の手入れ <input type="checkbox"/> ④おむつ交換 <input type="checkbox"/> ⑤授乳のこと <input type="checkbox"/> ⑥育児に慣れない感じとまどった <input type="checkbox"/> ⑦漠然とした不安 <input type="checkbox"/> ⑧育児が困難だと感じた <input type="checkbox"/> ⑨家族の協力が得られなかった <input type="checkbox"/> ⑩実家の協力が得られなかった <input type="checkbox"/> ⑪気が滅入った <input type="checkbox"/> ⑫その他(内容)
問3	困りごとなどを相談する相手はいましたか	<input type="checkbox"/> ①いた <input type="checkbox"/> ②いなかった
問4	体調は良かったですか	<input type="checkbox"/> ①はい(問5へ) <input checked="" type="checkbox"/> ②いいえ(以下にお答えください) <input type="checkbox"/> ①産後の回復が遅かった <input type="checkbox"/> ②からだの痛みが強かった <input type="checkbox"/> ③乳房の状態がよくなかった <input type="checkbox"/> ④からだの疲れが取れなかった <input type="checkbox"/> ⑤病気をした <input type="checkbox"/> ⑥睡眠が十分取れなかった <input type="checkbox"/> ⑦精神的につらかった <input type="checkbox"/> ⑧その他 ()

問5	お産～産後2か月までに受診・利用したものについてチェックを入れてください	<input type="checkbox"/> 健診など <input type="checkbox"/> ①1か月児健診 <input type="checkbox"/> ②産後の健診 <input type="checkbox"/> ③予防接種(2か月児の時) <input type="checkbox"/> 教室など <input type="checkbox"/> ④育児の教室 <input type="checkbox"/> ⑤運動教室・エクササイズ・産後体操 <input type="checkbox"/> ⑥栄養教室など <input type="checkbox"/> ⑦ストレッチ <input type="checkbox"/> ⑧ベビーマッサージ <input type="checkbox"/> 相談など <input type="checkbox"/> ⑨育児相談 <input type="checkbox"/> ⑩栄養士の相談 <input type="checkbox"/> ⑪こころの相談 <input type="checkbox"/> 癒し系の施術やサービス <input type="checkbox"/> ⑫鍼 <input type="checkbox"/> ⑬灸 <input type="checkbox"/> ⑭マッサージ・エステ <input type="checkbox"/> ⑮アロママッサージ <input type="checkbox"/> ⑯フットケア <input type="checkbox"/> ⑰ヨガ <input type="checkbox"/> デイクアなど <input type="checkbox"/> ⑱産後デイクア <input type="checkbox"/> ⑲産後ショートステイ <input type="checkbox"/> ⑳産後ホームヘルプサービス <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> ㉑その他 ()
----	--------------------------------------	---

2ページあります

これまでに利用したサービスや、お考えについて。

問6 あなたのお住まいの地域で、以下の機会があれば参加・利用しますか(該当するものにチェック)

選択肢パネル提示

- ①育児の方法を教わる場 ②乳房のケアを教わる場
③自身の健康管理を教わる場 ④悩みをきいてもらい、ねぎらってくれる場
⑤家庭の大切さや親育ちを教わる場 ⑥親どうしの仲間作りの場
⑦近所の人、地域の人たちと交流する場
⑧夫(パートナー)や家族が育児を教わる場 ⑨とくにない

問7 お産から産後2か月くらいまでの間に、以下のサービスが提供されていたならば、利用してもよいと思いますか？

1) 「産後デイケア」 日帰りで休息と食事を提供し、育児の知識や技術、健康管理を教えてくれるもの

選択肢パネル提示

1日(6時間、昼食おやつつき)→

※回答に近い金額の番号を記入→

- ①ぜひ利用したい ②場合によっては利用したい ③利用しない

①②の場合 : 費用がいくらなら利用しますか

1日につき ①0円 ②500円 ③1000円 ④2000円 ⑤3000円

⑥5000円 ⑦10000円

2) 「産後ショートステイ」 上記産後デイケア に宿泊と入浴、夜間の食事がついて、ゆっくり母乳同室で休息できるもの

1泊4食デイケア1日分
食事は昼、おやつ、夕、夜食、朝→

※回答に近い金額の番号を記入→

- ①ぜひ利用したい ②場合によっては利用したい ③利用しない

①②の場合 : 費用がいくらなら利用しますか

1回につき ①0円 ②5000円 ③10000円 ④15000円 ⑤20000円

⑥20000円を超えても

3) 「産後ホームヘルプサービス」 家事や育児を行うことが困難な場合に、ホームヘルパーを派遣して母親や乳児の身の回りの世話や育児等を支援するもの

1回2時間→

※回答に近い金額の番号を記入→

- ①ぜひ利用したい ②場合によっては利用したい ③利用しない

①②の場合 : 費用がいくらなら利用しますか

1回につき ①0円 ②500円 ③1000円 ④1500円 ⑤2000円

⑥2000円を超えても

アンケートは以上です。ありがとうございました